

第1回 海外渡航者のプライマリケア講習会

日時： 2012年6月30日（土） 14:00～17:00

場所： 東京医科大学病院6階 臨床講堂
（東京都新宿区西新宿6-7-1 東京メトロ丸の内線西新宿駅前）

テーマ： 海外から帰国した有症状者の初期対応

総合司会： 濱田 篤郎（東京医科大学病院 渡航者医療センター）

プログラム

（1）海外渡航者の総合診療（問診から診断へのアプローチ）

演者： 水野 泰孝

（東京医科大学病院 感染制御部・渡航者医療センター）

（2）消化器症状を認める患者の対応

演者： 加藤 康幸

（国立国際医療研究センター 国際疾病センター国際医療支援室）

（3）発熱・発疹を認める患者の対応

演者： 中村（内山）ふくみ

（奈良県立医科大学 病原体・感染防御医学、感染症センター）

- ・講習会終了後、情報交換会を企画しております
- ・運営費として5000円を当日徴収します（情報交換会費を含みます）
- ・本会は日本医師会認定生涯教育制度認定講習会で3単位が取得可能です

主催： 臨床熱帯感染症研究会

共催： 東京医科大学病院渡航者医療センター
東京医科大学病院感染制御部
東京医科大学病院総合診療科

後援： 東京都医師会

東京医科大学医師会

「海外渡航者のプライマリケア講習会」 開催にあたって

新緑の候、先生方におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

近年の国際化に伴い、日本人の海外渡航者数は1500万人を超える時代となり、帰国後に健康上の問題点を抱える者も増加しております。帰国後の患者さんはまず近隣の医療機関を受診することになるかと思いますが、多くはプライマリケアの範疇で診断、治療を完結することでしょう。しかしながら、一部の患者さんは、一般の診療ではめったに診ることのない熱帯病であるかもしれません。

例えば、熱帯熱マラリアは初期の対応が適切に行われていれば完治しますが、そうでないと免疫のない日本人であれば数日で死に至ることがあるため、最低限の初期対応は理解しておく必要があります。しかし現状では、最初に診療した医師の診断や対応の遅れによる死亡例がいまだにみられています。すなわち

「熱帯地域から帰国した者が発熱した」にもかかわらず、熱帯病を疑うことなく全く別の治療が施されていた結果なのです。

勿論、マラリアだけを鑑別するわけではありませんが、日本には存在しなくても、海外から輸入されてくる熱帯病が決して少なくはないという認識を持っていただくことが重要です。このような現状をご理解いただき、一般臨床に生かしていくことが多くの日本人海外渡航者にとって有益なのではないでしょうか。

上記を踏まえ、日常的にプライマリケアを実践されている先生方を対象として、海外渡航者診療の基礎的知識を習得していただきたく本講習会を企画致しました。今後は徐々にテーマを増やし、東京地区だけではなく、関西地区でも講習会を開催する予定ですので、継続した受講をご検討いただければ幸いに存じます。

平成24年5月

臨床熱帯感染症研究会 代表世話人

東京医科大学病院 感染制御部・渡航者医療センター 准教授

水野 泰孝